

私たちは涙を綴って、 笑顔を取り戻す。

亡くなった人への後悔や憤り、

伝えきれなかった言葉。

残されたものが抱える苦しさや痛み。そして愛。

みんながおばあさんに渡す手紙には、

そんな“想い”が詰まっている。



「天国への郵便配達人」のポプラ荘の大家さんと
死んだ父に宛てた手紙を綴っていく少女や
まわりの人々の、心をいやす感動の物語。

大好きだった父を突然亡くした8歳の千秋(本田望結)は、生きる気力を失った母(大塚寧々)と共に引っ越してきたポプラ荘で、大家のおばあさん(中村玉緒)と出会う。

父を失ったことで心に不安を抱えた千秋におばあさんは、「自分は亡くなった人に手紙を届けることができる」と話し、その言葉を信じた千秋は死んだ父に伝えたかった溢れる想いを手紙に綴っていく――。



飛騨高山の美しい風景が、
映画のもうひとつの主役になる――

撮影は、小京都と称される美しい飛騨高山で行われた。日本の観光地を格付けしたミシュラン・グリーンガイド・ジャパンで、最高の三ツ星をつけられたその古き良き街並みは、映画の中でも随所に映し出される。

美しい山々から上る陽や、はっとするほど鮮やかな赤い中橋、どこまでも続くように空に伸びたポプラの木や、猫がまどろむおばあさんの家の縁側。まさにこの映画のためにあったような、どこか懐かしい風景が心を和ませる。

監督は、2014年に公開された「瀬戸内海賊物語」で少女たちの冒険をいきいきと描いた新鋭の大森研一。撮影監督には、是枝監督の「幻の光」でベネチア国際映画祭オゼッラ・ドゥオ口賞を受賞した撮影界の重鎮・中塚正夫。音楽を手がけたのは、ピアニストとしてだけでなく、作曲家、俳優とマルチな才能を発揮している清塚信也。映画のラストに流れる主題歌「少しだけ」を歌う持田香織の澄んだ切ない歌声は、よりいっそう映画の余韻を心に刻む。

本田望結 中村玉緒

大塚寧々 村川絵梨 藤田朋子 宮川一朗太 山口いづみ 内藤剛志

主題歌:持田香織「少しだけ」 Javex trax

監督:大森研一 原作:湯本香樹実『ポプラの秋』(新潮文庫刊) 音楽:清塚信也

企画:ZOOM 特別協力:高山市 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会 高山市観光連絡協議会

誰かの優しさに触れて 私たちの今日はあって。

巡る季節の中で 何気ない毎日の中で、
その温もりはとてとても大切なものと、
そんなことを思わせてくれるお話でした。

歌わせて頂けてとても光栄でした。

――持田香織 (Every Little Thing)



「夏の庭―The Friends」[「岸辺の旅」]
湯本香樹実によるロングセラー小説「ポプラの秋」を、
主演本田望結・中村玉緒で映画化。

父の死によって傷ついた心を抱える繊細な少女千秋を、ドラマ「家政婦のミタ」やフィギュアスケートの才能でも注目の本田望結が演じた。彼女にとってこれが映画初主演作となる。ポプラ荘の大家のおばあさんを演じる映画出演100作以上のベテラン中村玉緒とは65歳差の共演。

原作者の湯本香樹実は、映画化、舞台化された「夏の庭」などの作品で知られ、最近では「岸辺の旅」も映画化され第68回カンヌ映画祭「ある視点」部門で監督賞を受賞した。

本作の原作「ポプラの秋」は、1997年に発表されて以来、アジアのみならず、アメリカ、ヨーロッパなど世界10ヶ国で翻訳・出版され、言葉や文化の壁を越えて愛されている心温まる小説。映画も必ず、観る人の心を掴むだろう。本作は、本年度の第18回上海国際映画祭「パノラマ」部門の正式招待作品となり、現地の上映でも大喝采を浴びた。



天国に決して届かない手紙が心に届く。

主催:東かがわ市交流プラザ

問合せ先:東かがわ市交流プラザ 0879-26-1224

共催:高松シネマクラブ

後援:東かがわ市教育委員会

前売券発売所:東かがわ市交流プラザ・大内公民館・引田公民館

割引券:当日このチラシをご持参の方は、1,000円で5名様までご利用出来ます。

前売料金

一般 1,000円

(当日 1,200円)

中学生以下無料